発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人 杉本一男
半年間1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825－0000569

うごき

23日 炭労中央行動
24日 炭労臨時大会
26日 団体交渉
26日 第26回委員会
28日 9・28抗議集会
29日 炭労24スト
29日 保安委員会
30日 三川安全会議
30日 炭労中央行動
10月1～2日 執行部入坑点検
2日 第27回委員会

二鉱体制問題で団交
四山終掘は来年上期末

六月の希望退職募集の強行以後縮小合理化が進められていますが、会社提案の坑口統合（三鉱体制）についても、別組合がすでに了承していることから、十月からの統合さらに来年一月五日からの入昇坑経路の変更などが具体化しています。

三池労組は、すでに八月二十八日付で要求書を提出し解明交渉を申し入れていましたが、九月二十六日団体交渉が開かれ回答が出されました。（要求内容は前号に）

回答内容（要旨）

1、坑内・外の人員配置については成案中である。しかし別組合については坑外で数名配転した。

2、四山区域の終掘は六十三年上期末だが早まることもある。人員・生産・保安は現状のまま、入昇坑経路の変更だけである。

3、四山区域終掘後の管理は成案中である。

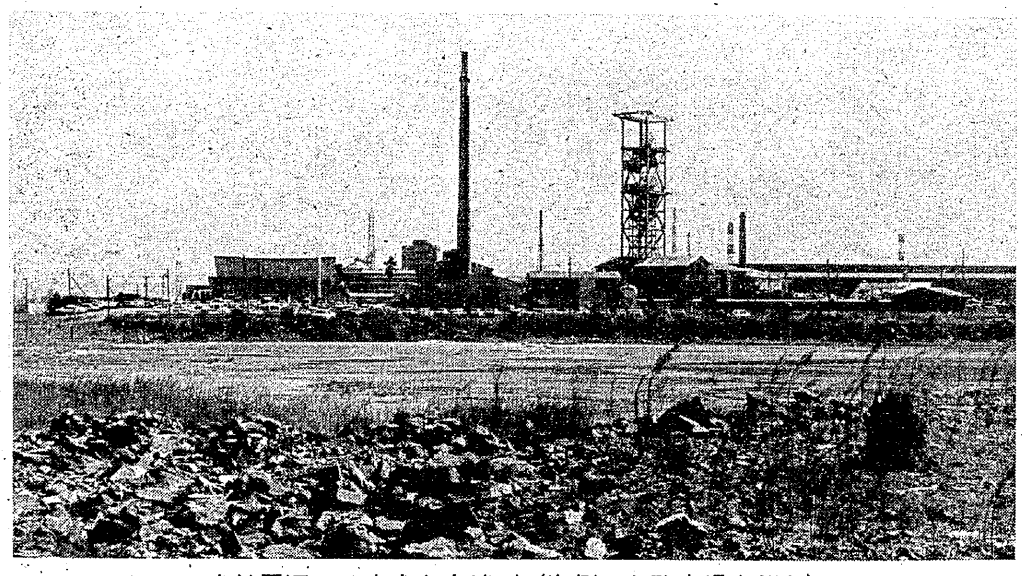
4、坑外施設は、立坑捲は終掘まで維持する。駐車場は貯炭場とする。その他は撤収材料置場を予定している。

5、撤収作業計画は今後作成する。

6、保安施設のうち、集中監視装置は一月五日を目途に三川に統合する。通気関係については生産会議で出してほしい。

7、(イ)保安教育は特に考えていないが、終掘以前に三川区域で作業する職種は早期に行う。(ロ)繰込時刻は同職種同時刻とする。(ハ)各職種の統合は考えていない。(ニ)(ホ)脱衣場は改造して増設する。保安会場は移設する。ロッカーは増設する。工具箱は移設する。乾燥場は改装する。駐車場は人事跡地に施設（人事は二輪車置場に移転）。(ヘ)保安会などは現行通りとする。(ト)人車運行などは別途提示する。

以上のような回答を受けて、われわれとしては統合強行に反対ですが、具体的な内容として検討していくことにしています。



四山鉱周辺には広大な空地が（海側から駐車場を望む）

四山社宅撤去必要なし
再提案で変更、若干延期

八月四日に提案された、貯炭場造成に伴う四山社宅の全面立ち退き問題については、貯炭場造成を大義名分にしていますが、将来の社有地私用を前提にした社宅集約であり、従来の経過からみても容認できるものではなく、八日付で要求書を提出していました。

要求と回答（要旨）

1、貯炭場造成については、工事開始を延期し、再検討すること。

2、二鉱体制実施後の四山鉱外跡地計画について明らかにすること。

3、転居については、本人の意向を十分尊重すること。

など、十一項目。

この要求に対して、二十六日に開かれた団交で再提案として回答された内容の要旨は次の通りです。

1、六月末の貯炭は二・五六七千トンだったが、八月末で二・六三八千トンで約七・一万トンしか増えていないが、これは払条件の悪化で七月、八月に七・八万トンの出炭減によるものであり、通常出炭であれば月六万トンずつ増える。

2、現状では三五万トン程度しか貯炭場を確保していない。従って来年一月五日からの坑口統合（二鉱体制）を前提として、

3、一期工事（九月一日）を十月十五日からに延期する。（約二〇万トン）

4、一月五日から四山鉱駐車場の造成工事を着工する。（二〇万トン）

5、二期工事（熊社）を三月末に延期する。

6、福社について六十三年早々に別途提案したい。

などで、組合側は四山社宅撤去の必要性はないと追及、その他の回答を含めて回答内容を検討することにしています。

春闘、超低額で妥結
一方95円、展開交渉は10月中旬

「第八次石炭政策の初年度体制が整備されるまで春闘交渉は延期」という石炭資本の不当な申し入れによって、延び延びになっていた春闘交渉が九月十六日（三井）から再開され、十八日午後五時、賃上げ一方当たり九十五円、その他の制度要求（災害補償、最低賃金など）の若干の引き上げで妥結しました。（号外参照）

妥結内容（骨子）

①賃金 一方当たり九五円
②家族手当 前協定通り
③最低賃金（六三円増額）
坑内 五、七七二円
坑外 四、五九九円
④災害補償
弔慰金 有扶 二、三〇〇万円
その他 一、七二五万円
（一〇〇万円～七五万円増額）
障害見舞金
障害等級に応じ一〇〇万円から一万円の幅で増額
通勤途上災害補償
遺族見舞金 有扶一九〇万円
その他一三四万円
（一〇万円～七万円増額）
⑤時間短縮
特定休日は前協定通り。

前号は休刊

『みいけ』九月十六日号は諸般の事情で休刊いたしました。あしからずご了承下さい。

真谷地鉱問題が切迫
29日、全山24時間ストに突入

北炭各社は九月九日、札幌で開かれた特別労使協議会の席上、各労組に対して中期計画を提示。その内容は「幌内・空地両炭鉱は操業を継続する」「真谷地鉱は十月三日をもって閉山する」というもので、炭労は二十三日に中央委員会、翌二十四日に臨時大会を開いて閉山反対闘争方針を決定。中央行動、現地・札幌での諸行動に取り組むとともに、二十九日閉山阻止・対置要求獲得を指標に全山二十四時間のストライキに突入しました。（関連記事二面）

また当日、現地では決起集会が開かれました。

結審に向って全力を
9.28 坑内火災 抗議集会開く

昭和42年9月28日、三川鉱で坑内火災が発生し、上村さんはじめ7人が死亡、400人以上がCO患者となった。あれから20年。裁判もいよいよ結審を迎えようとしている。(三川鉱正門前で、9月28日)

地底

▼…雨が多く、夏らしくない気候が続いたかと思えば、まだ九月の末だというのに急に冷え込んだりする。一時的な冬型の気圧配置らしいが、なんとなく昨今の寒々とした世の中を象徴してはいないか。

▼…中曽根退陣は確かなこと。やめていく者が、あれこれと約束するのも変な話だが、ロン・ヤス・チャーターもその部類。レーガンから大きなマルをもらったが、続投の声もちらほら出たそうな。国内ではマルはマルでもマル優にとどめをさし、後継者選びにもにらみをきかす。やっぱり田中的な存在でいたいらしい。

▼…科学技術庁の未来予測によれば、百年後にはがん細胞を正常に変えたり、大地震が数日前に予測できたりするとか……ETC。当たるも八卦 当たらぬも八卦だが、何しろ百年先のこと。仮にそうなったとして、その時、社会の仕組みはどうなっているのだろう。ほかの理由で死を早めることはないのか。戦争は、核は……。

▼…「国民生活選好度調査」(経済企画庁)によると、三年前の前回調査に比べ生活の「満足感」は急速に低下。中流意識にもかげりが見えるなど、生活上の不満が高まっている。――そうだよな。とくに将来の暮らし向きに否定的な見方をしている人が六五・四%と大幅に増え、政治は確実に国民に背を向けている。

▼…真谷地炭鉱の命運も尽きかけている。ここでも石炭があって、人がいて、街があるのに潰されていく。その一方で油権をめぐってイランたたきがあり、わが国も危険な手出しをしようとしている。エネルギーの根幹を無視すれば必ず報いがある。石炭を潰すことと相俟って、この道は日本を潰すことになりかねない。